

表1-4 東北地方における春彼岸の削り花習俗

地域	名称	材の樹種 <方言名>	製作 道具	形状			販売	詳細	文献		
				削り	組合の 樹種	彩色					
秋田県											
1	藤里町 (字不明)	造花	—	—	?	—	—	—	入り彼岸、中日には仏前に造花、団子を供える	1	
2	大館市	釈迦内	ヒガンバナ	—	—	?	—	○	ナマバナが手にはいらないので墓に供える花も、木を経木のように薄くけずって、赤・青・黄に染めてこしらえた造花、ヒガンバナである。それに、センニチコウやカイガラ花のように乾燥して保存しておいても形のくずれない花を用意しておいてお参りした	2	
3		長走	ヒガンバナ	—	—	?	—	○	墓参りは、彼岸の入りの日、中日、シマイ彼岸の三回する。持参するものはヒガン花・ダンシ・ワラ…(後略)		
4	能代市	道地	彼岸花	(色紙)	—	×	木	○	○	彼岸にはまた、家の仏壇や墓などに花を供えるのも習わしである。しかしながら、寒冷地であるから生花はほとんどない。そこで造花を供える習わしが続いてきた。この花を彼岸花と呼び、木の枝に色紙でこしらえた花をつけて飾る。彼岸花は道地や檜山で作って小店で売られたりしてきたが、部落によってはお婆さんたちが集団で作るところもあり、個人的に作ることもあって、さまざまに工夫をこらすことに、喜びを感じているようである	3
5		檜山									
6	飯田川町 (字不明)	彼岸花	—	—	?	ウツギ	—	○	彼岸花といって、ウツギに生花を(現在は作ったもの(紙花)を買って)さし込み仏に供える	4	
7	八郎潟町 (字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	○	生花の少ない季節の行事だけに、彼岸花という造花が売り出され、雪の墓前に色をそえる	5	
8	五城目町 (字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	○	花のない季節なので、彼岸花という造花が市やダミヤの店頭で売られる	6	
9	秋田市	太平地区	彼岸花	—	細工 小刀	○	(ときわ 木)	○	○	花にはほど遠いこの季節に迎える“彼岸”のころになると、秋田市近郊の農婦の手づくりになるレンゲ、ツバキ、アヤメなどの造花が売られる。彼岸花といって、ときわ木の葉につけた五彩の造花であるが、仙北郡地方ではコサンバラ(コシアブラ)という木を削ってちぢらせ、巻きあがらせて染めた削り花である…ホデアギ棒は…角館町雲沢や秋田市太平では削りかけの彼岸花とともに作られる(勝平・相場)／春の彼岸のころは太平地区は、まだ雪が残っており生花は咲かない時期であったので、このころになると、各家には彼岸花といって造花を売りにきたものであった(太平郷土史)／小刀の先にタンを付けたもので手前に引いて削る	7・ 調 07
10	河辺町 (字不明)	(造花)	—	—	?	—	—	—	彼岸の入り日より終日に至るまで一週間、各戸仏壇に蓮華其他の造花を手向け、団子を供へて祖先を祭る	8	
11	角館町	雲然ほか	彼岸花	コシアブラ <コシヤブラ>	細工 小刀	○	イタヤ カエデ	○	○	[墓に]コサンバラ(こしあぶら)の木を削った彼岸花を供える(角館誌)／コシアブラのハナを3又のイタヤカエデの木に付ける。小刀の先に木っ端を付けたもので、手前に引いて削る。彼岸花は角館の町で売った(筆者調査)	9・調 07
12	西木村 (字不明)	彼岸花	コシアブラ <コサンバラ>	—	○	—	—	—	—	お寺詣りや墓参り時に供える花はコサンバラ(コシアブラ)の木を削って作った花や紙で作った彼岸花であったが最近では生花に変ってきた	10
13	仙北地方 (字不明)	ヒガンバナ	—	—	○	ウツギ	○	○	○	ヒガンバナといって、ウツギにさした造花を一对買って仏に供える、平鹿、仙北では削りかけを染めた花である	11
14	千畑町 (字不明)	彼岸花	—	—	○	竹	○	○	○	彼岸の入り日から一週間は仏壇に彼岸花を一对供えて拜む。…花のない季節であるから彼岸花は木を薄いかながら状にけずったものをレンゲ、ツバキ、アヤメなどの形につくって着色し、竹を細く割った茎に咲かせたもので、彼岸が近づくと彼岸花を売る人が家々を回ったものである。また、これを買うのにわざわざ町まで出かけたものである	12
15	横手市	山崎町	彼岸花	—	専門の 道具	○	—	—	○	横手地方の祝儀棒は、現在、横手市山崎町高橋寅藏氏が造花「彼岸花」と共に一手専門となっていゐる…寅藏氏の祖父権治といふ人〔岩崎藩の家中〕が、手内職に始めた…祝儀棒を作る道具のうちには、他見を許さぬものがあり、従って其の道具は、手製である	13
16	平鹿地方 (字不明)	ヒガンバナ	—	—	○	ウツギ	○	○	○	ヒガンバナといって、ウツギにさした造花を一对買って仏に供える、平鹿、仙北では削りかけを染めた花である	11
17	稲川町 (字不明)	彼岸花	—	—	○	—	—	○	○	かんなけずりの彼岸花を買い、墓参り、寺詣りして、近い親類の家のお参りに行ったり、春分の日を中心に、交流する	14

<参考文献> (1)藤里町誌1975 (2)『大館市史4』大館市史編さん委員会1981 (3)『能代市史』特別編民俗 能代市史編さん委員会2004 (4)『飯田川町史』飯田川町史編纂委員会2000 (5)『八郎潟町史』八郎潟町史編纂委員会1977 (6)『五城目町史』五城目町史編纂委員会1975年 (7)『秋田市太平郷土史』太平郷土史発刊委員会1997、勝平得之・相場信太郎『秋田歳時記』叢園社1966 (8)『河辺郡誌』秋田県河辺郡役所1917 (9)『角館誌7・9』「角館誌」編纂委員会 1971・1985 (10)『西木村郷土誌』民俗 西木村郷土誌編纂委員会2000 (11)『秋田県史』民俗工芸編 秋田県1978 (12)『千畑村郷土誌』千畑村郷土誌編纂委員会1986 (13)佐川良視「祝儀棒」『横手郷土史資料27』横手郷土史編纂会 1954 (14)『稲川町史』稲川町教育委員会1984

表1-4 東北地方における春彼岸の削り花習俗2

地域	名称	材の樹種 〈方言名〉	製作 道具	形状			販売	詳細	文 献		
				削り	組合 の樹種	彩色					
岩手県											
18	川崎村	所萱	ケズリバナ ヒガンバナ	ニワトコ 〈ニワトク〉	ナタ (専用)	○	ツゲ	○	○	一関市花泉町から指導にきてもらい、1999年頃から老人クラブで作るようになった。先端が鉤状になった専門の刃物で手前に引いて削る。刃物は花泉町の鍛冶屋に注文。ツゲに3つハナを付け、2束を1セットで道の駅で販売。彼岸にお墓に供える	調 06
19	花泉町	老松	彼岸花	ヌルデ 〈カヅノキ〉	ナタ (専用)	○	ツゲ	○	○	老人クラブで副業的に作って販売。先端が鉤状になった専門の刃物で手前に引いて削る。刃物は鍛冶屋に別注する。ツゲに3つハナを付け、2束を1セットで農協や花屋で販売。21日に墓に供える	調 06
宮城県											
20	登米町	寺池 (船橋)	ヒガンバナ	〈ヤナギ〉	ナタ (専用)	○	ツバキ	○	○	昔から作っている人はいたが、少なくなっていたために1984年頃に老人クラブで作りはじめた。現在は24名の会員だが、当時は倍以上いた。ハナは先端が鉤状になった専門の刃物で手前に引いて削る。数個の花をつけたツバキとイタッコヤナギ(ネコヤナギの芽)をセットにして道の駅で販売。お墓に供える	調 06
21	津山町	深畑	ケズリバナ ヒガンバナ	〈ヤナギ〉	ナタ (専用)	○	ツバキ	○	※	2003年頃から老人クラブで作るようになった。先端が鉤状になった専門の刃物で手前に引いて削る。数個の花をつけたツバキとネコヤナギの芽をセットで道の駅で販売。色は染めない方がいいという人もいるので、白木のまま出すものもある。ケズリバナを供えるのは最近の風習	調 06
22	仙台市	全域	削り花	コシアブラ	ハナカキ (専用)	○	ツゲ	○	○	春彼岸には…コシアブラで作った削り花を墓前に供える。削り花の製作は山間部農村の春の副業となっている(仙台市史)／ハナカキと呼ばれる先端が鉤状になった専門の刃物で手前に引いて削る。刃物は近隣の鍛冶屋に別注。コシアブラのハナをツゲに挿し、大体3本セットにする。かつては農閑期の副業としてみな削っていた。昭和25・26年頃で、ひとシーズン4〜5千こ卸した。お墓の他、仏壇にも供える。また、春彼岸だけでなく小正月にも墓に供える(筆者調査)	1・ 調 05
23	石巻市	(字不明)	彼岸花	—	—	○	—	○	○	今日でも春の彼岸には街の八百屋や店頭には削り花が売り出され、花の中央に緑・赤・黄と彩度の強いインク製の染料で色付けされているのを見ると、白い木肌に生えてお彼岸の感を一層強く感じさせられる。これは信仰と全く関係がなく、春の彼岸時は生花も少ないので自然に削り花に代ってしまったものと思われる。戦前は彼岸がくると各花屋で、削り小刀で削ったが、現在では特殊な人以外は作らなくなってしまった。これを彼岸花と呼んでいる	2
山形県											
24	白鷹町	(字不明)	彼岸花	—	—	○	—	—	○	彼岸の入りに、「彼岸花」(造花)を買って供える	1
25	長井市	森	森花・ 彼岸花・ つめ花	コシアブラ	小刀	○	ハギ・ アオキ	—	○	白鷹町浅立に隣接する長井市森には数百年前から続けられたと古老の伝える「削り花」がある。当地では「森花」と呼び、十二月の末に売ったので「つめ花」(十二月に各戸に売り歩いた)とか、彼岸の墓詣りに使ったりするので「彼岸花」とも呼んでいた。削り花の材料は「コシアブラ」で…削って作った花の穴に萩を削って刺し、柄にして三本、五本と組合せて花の形にする。戦前は森部落で幾十軒の削り花屋があり、冬仕事として囲炉裏の端でやっていたが、生計の不足を補うというよりは、小使銭を稼ぐといったものである…作った花は主として仏壇用であったが、墓地に使うものは萩の棒の代りに「アオキ」を使ったという。需要も多かった頃は宮内・小松方面。荒砥・宮宿方面にまで行商が行われ、一時は米沢、仙台方面まで出かけたこともあると云い、一本三十銭から五十銭ぐらいであった。花作りには小刀一丁を使用するのみ…	2
26	米沢市	笹野	削り花・ 彼岸花・ ツメ花・ 笹野花	コシアブラ 〈アブラッコ〉	チヂレ (専用)	○	ツゲ	○	○	農閑期の副業として男が作り、女が行商や市で売った。チヂレと呼ばれる専用の刃物で押し出すように削る、コシアブラのハナをツゲに付ける。年末のツメの市や行商で買って仏壇に供え、春彼岸には墓に供えた(詳細は本文参照)	3・ 調 03
新潟県											
27	新発田市	西塚ノ目	ヨネクラ バナ	—	—	○	—	—	—	入りの日に造花の一本、蓮華やヨネクラバナ(削り花)を仏壇にあげる	1

〈参考文献〉 宮城：(1)『仙台市史 特別編6』仙台市史編さん委員会1998 (2)杉山寿「削りかけることについての考察」『石巻地方の歴史と民俗』石巻工業高等学校図書館1973 山形：(1)『白鷹町史 下巻』白鷹町史編纂委員会1977 (2)『置賜の民俗1』置賜民俗研究会1966 (3)秋山古城「郷土玩具 笹野彫りに就て」『旅と伝説』東京堂1928・6月、梅津宮雄『米沢の郷土玩具』川島印刷1975、『米沢市史 民俗』米沢市史編さん委員会1990 新潟：(1)『新発田の民俗 下』新発田市史編纂委員会1972



表1-4 東北地方における春彼岸の削り花習俗3

福島県												
28	桑折町	(字不明)	(花)	(色紙)	—	×	ツバキ	—	○	春の彼岸は花が不足なので、つばきの小枝の先に薄手の色紙で花をつけ、針金で結んだのを行商に來た。それを買って供えたこともある	1	
29	梁川町	梁川	(造花)	—	—	?	—	—	—	生花・造花・線香を持って墓参りする	2	
30		五十沢	(造花)	—	—	?	—	—	—	墓にぼた餅・花(造花)・菓子を供え、線香を上げてお参りする	2	
31	月舘町	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	—	中日にはぼた餅をつくって墓参をし、彼岸花を供える	3	
32	川俣町	小島	(かんなくずの花)	—	—	?	—	—	—	入口、彼岸には変わり御飯を炊き、中日にはおはぎ餅を上げ、かんなくずの花をあげて、お墓参りする	4	
33	二本松市	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	—	中日にはぼたもち、団子、切り昆布の煮物を作り、仏壇とお墓に供えてお参りする。彼岸花といって造花も供える	5	
34		岳	ヒガンバナ・チリチリ	—	—	○	—	—	○	※本宮町南町の商店の発注で「チリチリ(削り花)」を作って卸している	6	
35		杉田町	ヒガンバナ・ツケギ	—	—	×	—	—	○	※本宮町南町の商店の発注で「ツケギ(経木型の花)」を作って卸している	6	
36	岩代町	(字不明)	ヒガンノハナ	—	—	○	竹	○	—	春の彼岸にヒガンノハナという削りかけを作って供える。細く削ったチヂレを割り箸くらいの竹の先にさしたもので、これを墓に供える	7	
37		杉沢	彼岸花	—	—	○	—	—	—	墓には彼岸花のほか、さまざまな供物を上げて焼香する	8	
38		小浜藤町	彼岸花	—	—	○	—	—	—	(写真のみ)	8	
39	本宮町	高木	彼岸花	—	—	?	—	—	—	線香・彼岸花(造花)と、味飯・切り昆布の煮物・菓子などの供物を持って墓参りし、寺にも寄る	9	
40		仁井田	彼岸花	—	—	?	—	—	—	ぼた餅・団子と切り昆布の煮しめを作り、仏壇に供える。墓には造花の彼岸花もあげる	9	
41		南町	ヒガンバナ・チリチリ	コウゾ・<柳>・ウツギ・<ノデッポウ>	カマ	○	竹	○	○	※経木型のハナと削り掛型(チリチリ)のハナがある。近隣農家にヒガンバナを発注し、春彼岸前にで売り出す。チリチリにはコウゾが最も適している。カマで手前に引いて削る。竹に挿し、マツ材で作った葉をつける。自家の花および親族・知己の人の墓に供える	6	
42	郡山市	(字不明)	(造花)	—	—	×	—	—	—	郡山市の周辺では、カンナ屑のように薄く削った木を数センチの幅にして、十文字に重ねて止めたものに柄をつけたものが彼岸に作られる。時期になるとデパートでも売り出すという	7	
43		西田町	ヒガンバナ・チリチリ	—	—	○	—	—	○	※本宮町南町の商店の発注で「チリチリ(削り花)」を作って卸している	6	
44	三春町										10	
45	大越町	(字不明)	(造花)	—	—	?	—	—	—	団子と線香・造花・生花・水などを持って墓参りする	11	
46	須賀川市	(字不明)	ヒガンバナ	<松>	—	×	竹	○	○	春の彼岸が近づくと八百屋の店頭にはヒガンバナのはなやかな色彩があふれだす。花は松の木を薄くけずったものに赤、紫、黄、ぼたん色などの原色を染め、三枚程中心を挿し前後を萩の茎の丸切にしたもので止める。その花を三ツ割の竹の先にそれぞれ一つずつつけ、花卉は内側にそらしてある。それを家々ではイッコッコ(猫柳)などと一緒、自分の家の墓地をはじめ親類や知人の家の墓地に供えて廻る。それを彼岸花あげという	12	
47	長沼町	榊衝古舘	彼岸花	—	購入	?	—	○	○	彼岸花と水と重箱を持ってお墓に供えてお参りする。彼岸花はカンナガラを素材にし、赤・緑・黄・紫で彩色して花ビラにして花をかたどったもので、昔はかごを背負って売りにきていたが現在は長沼町の店から買ってくる	13	
48	天栄村	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	—	中日には牡丹餅を作る。牡丹餅・水・米・菓子・果物・線香とカンナガラの彼岸花を持って、家族一同そろって墓参りする	14	
49	鏡石町	鏡田	彼岸花	—	—	?	—	○	○	カンナガラの色とりどりの彼岸花を店から買ってお墓に供え、線香、茶、水などをあげてくる	15	
50		久来石	彼岸花	—	—	?	—	○	○	お萩を作って仏様に供え、鉦でつくり色を染めた花を墓地に供えてお参りする	15	

表1-4 東北地方における春彼岸の削り花習俗4

地域	名称	材の樹種 〈方言名〉	製作 道具	形状			販売	詳細	文 献		
				削り	組合 の 樹種	彩色					
51	平田村	小松原	彼岸花	〈松〉	カンナ	×	竹	○	—	中日には、ボタ餅、線香、彼岸花を持って墓参りをする。彼岸花は松の木をカンナで花びらの大きさに削り、赤、青、黄色、ピンクなどに塩気性色素で染め竹を細くして花型にさし、その花の上下をシラスギの木で止めて彼岸花をつくる	16
52		上蓬田 ほか	彼岸花	—	—	?	—	—	—	彼岸入りから四日目が中日である。線香、彼岸花、水、ボタ餅を持って墓参りする。この場合この墓に線香をあげても良い。先祖全体の供養日である	16
53	浅川町	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	—	…彼岸の中日には家族揃ってお墓参りに行く。生花の少ない季節なので、それに代わって造花の彼岸花がどこの墓にも供えられる	17
54	白河市	飯沢・ 金勝寺	(造花)	—	—	?	—	—	—	彼岸に入ると先祖の墓参りをする。近親の人は造花・生花を供えた後、墓参りした家を訪れお昼をごちそうになる…彼岸花は造花とネコヤナギである(白河市史)／白河ではダルマ市の時に彼岸花とって売っているものを買って彼岸までとっておく(塙町史)	18
55	鮫川村	(字不明)	ヒガンバナ ・ヤマバナ 造花	—	—	×	—	○	○	墓参りの時には、ボタモチ、ダンゴ、テンプラ、オフカシなどを作り、その他に菓子、ミカン、花などを持って行き供えてくる。花はヒガンバナとかヤマバナと呼ばれ、木の板を経木のように薄く切ったものを赤く染め、数枚重ねて花の形に作った造花が用いられる。かつてはこの花を彼岸の前になると売りに来ていた人がいたが、婦人会で注文を取って売ったり、地元の商店で売られるようになっている。彼岸に仏壇に供える花は、同じ造花であるがヒガンバナとは別で、菊や蓮の花である。最近ではこのような造花ではなく、生花を供える家が多くなっている	19
56	塙町	(字不明)	花	—	—	?	—	○	○	墓参りは中日に行き、団子、ぼた餅を持って行く。墓にはカンナくずに赤、黄、青、緑等の色をぬって作った花を供える。この花は白河、須賀川等広くみられるが、白河ではダルマ市の時に彼岸花とって売っているものを買って彼岸までとっておく。塙には須賀川から売りに来る	20
57	喜多方市	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	—	春の彼岸には仏壇に彼岸花と称して蓮・ぼら・牡丹・菊などの造花を手向ける	21
58	山都町史	(字不明)	造花 彼岸花	—	—	?	—	—	—	三月一八日は彼岸入りで、仏壇に造花彼岸花を飾って祖先を迎える	22
59	高郷村	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	○	春彼岸は花の少ない季節で「彼岸花」と称して売りに来る造花を買って飾る…	23
60	西会津町	(字不明)	造花	(紙製)	—	×	ツバキ	—	—	昔は、山の雪の消えたところをさがして、椿の枝をとってきて色紙で花をつくらせてあげたり、菊や蓮華の造花を買ったりしてお供えたものである	24
61	会津 若松市	(字不明)	ヒガンノ ハナ	(紙製)	—	×	—	—	○	彼岸になると紙で作ったヒガンノハナが売り出される。これを仏壇に上げる。	7
62	磐梯町	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	—	仏壇に彼岸花を供え、朝夕、膳・香を手向けて先祖の霊を供養する	25
63	湯川村	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	—	彼岸の入日には仏壇を掃き清め、彼岸花を飾り団子や菓子・果物、または正月の飾り餅を焙り仏前に供える	26
64	都路村	(字不明)	彼岸花	—	—	?	—	—	○	彼岸花は匏屑で作った造花を、大きな籠に入れて背負い歩く行商人が来たので、これを買って使っていたが、今は行商人が少なくなり、生花を使う人が多くなった。	27
65	双葉町	(字不明)	(造花)※	—	—	?	—	○	—	お墓にも同様に造花や、餅、線香などをあげて、先祖の霊にお参りする。造花は昔、カンナガラで作って花の色をつけたものだが、それは春あまり花が咲かないころであったためだ	28

〈参考文献〉 (1)『桑折町史3』桑折町史編纂委員会1989 (2)『梁川町史11』梁川町史編纂委員会1991 (3)『月館町の民俗』月館町教育委員会1987 (4)『小島の歴史と文化財』小島地区文化財調査委員会1997 (5)『二本松市史8』二本松市 1986 (6)松崎かおり「ハナタケ(花竹)習俗にあらわれる削り掛」『技と形と心の伝承文化』慶友社2002 (7)阪本英一『群馬の小正月ツクリモノ下』みやま文庫1998 (8)『岩代町史4』岩代町1982 (9)『本宮町史9』本宮町史編纂委員会1995 (10)松本登 (11)『大越町史3』大越町1996 (12)『須賀川市史 文化と生活』須賀川市教育委員会1978 (13)『長沼町史5』長沼町史編纂委員会1995 (14)『天栄村史4』天栄村史編纂委員会1989 (15)『鏡石町史4』鏡石町1984 (16)『平田村史3』平田村1988 (17)『浅川町史3』浅川町史編纂委員会1995 (18)『白河市史9』福島県白河市1990 (19)『鮫川村史1』鮫川村史編さん委員会2001 (20)『塙町史1』塙町1986 (21)『喜多方市史9』喜多方市史編纂委員会2001 (22)『山都町史3』山都町史編さん委員会1986 (23)『会津高郷村史3』高郷村史編さん委員会2002 (24)『西会津町史6』西会津町史刊行委員会1991 (25)『磐梯町史民俗』磐梯町教育委員会 1999 (26)『湯川村史2』湯川村教育委員会1988 (27)『都路村史』都路村史編纂委員会1985 (28)『双葉町史5』双葉町史編さん委員会2002